

『れんばい』 林 征良

わたしは、かまくられんばい所の和田さんのはたけでしゅうかくのお手つだいをさせてもらいました。そのとき、なすや、きゅうりや、白いなすをしゅうかくしました。きゅうりに、トゲがすこしありました。わたしは、白いなすがあることをしりませんでした。とった野さいは、ケートラにのせてはこびます。わたしも野さいと一しよに、はこんでもらいました。はたけが広いので、あぜみちを、ケートラで、ボコボコすみました。野さいによつて、そだてている畑がちがいました。わたしが、びっくりしたのは、さつまいもが、めちやくちや大きかったことです。めちやくちや大きいさつまいもを、やきいもにして、たべました。オーブンにはいらなかったので半分に切ってやきました。ホクホクしていて、とてもおいしかったです。とれたての野さいが、わたしは、すきです。

『なぞなぞ』

小松崎悠月

「この中に食べるとホツとするものがあります。」

つい三日前、できたてのサラダを前にママがなぞなぞを出した。ぼくは野菜がきらい。だけど答えは知りたい。だから食べることにした。

まずはゴボウだ。ポリポリ。うむ。かたくて、苦い。思わず目をつぶった。

次にキュウリを食べる。ポリポリ。やつぱり苦い。たまらずみけんにシワをよせた。

さいごにトマトを食べる。もぐもぐ。うつつぱい。おまけに何だ、このぐじゅぐじゅは。もうぜんぶケチャップにしてくれ。

ぼくは何とかぜんぶ食べた。さいごは口くちの中を牛乳がマイルドにした。しかし、ふと見るとママがにっこり笑っている。それを見てわかった。クイズの答え。食べるとホツとするもの。それはママだ。

『感謝の気持ちで「いただきます」新井楓夏

二年生まで広島に住んでいた私は、三年生の時鎌倉の由比ガ浜で地引あみを体験しました。今まで知らなかったので、自分の手であみを引き、魚を捕ることを知った時はとてもおどろいたわけです。こんな漁業があるんだ！と思う、面白そうだな！と楽しみにしていました。実際行ってみるととても大変な作業でした。魚はバンバン飛び跳ねるし、あみを持つ手は痛いし、漁師さんはこの仕事をいつもされているのかと思うと頭が下がりました。それと同時に海の恵みを私たちに届けてくれているんだなあ、とありがたく思いました。多くの人の力を借りて、たくさんの魚があがりました。持ち帰った魚で母が刺身や塩焼きに調理してくれました。私が毎日食べている食事からも命を頂いていると考え、海の幸である魚に「いただきます」と感謝して残さず食べる事が大切だと感じました。

『おいしかったな、鎌倉野菜』 田中あおい

この前、お父さんが自転車でおうふく三時間もかけて、鎌倉野菜を買ってきてくれた。

その中のそらまめを、お母さんが切り込みを入れてしおでゆでしてくれた。そらまめをむくとき、手にあせをかくくらいかたかったけど、早く食べたい気持ち勝ちすぎて、一気にむいた。ゆでたてはほくほくしていて、目がキラキラかがやいた。三時間もかけて買いに行ってくれたかいがあったと思った。

見た目はとっても大きいのに、なんで中身はこんなに少ないの。もう少し入っていたら、もっとうれしかったのに。ちよっと残念だなと思った。もったいないから、大事に食べた。

海と山にかこまれていて、おいしい空気のところ育てたそらまめは、そうぞう以上においしかった。

そらまめの中のふわふわベッドのことが気になりはじめたので、今度育ててみたいな。

『わたしのすきなやさい』 朝比奈明理

かまくらやさいのほうれん草は、冬になるとあじがあまくなってわたしはすきです。いろいろなほうれん草のおりょうりの中でもわたしは、ほうれん草のごまあえがおきに入ります。あとはほうれん草のおみそしるがすきです。

ほうれん草のはたけをみると太ようのひかりと水をあびてみどりがひかっているのを見て、がんばっていきっているんだなと思いました。しゅうかくされたのを見たら、わたしたちが、いのちをいただくんだと思いました。わたしが元気がないときに、お母さんはおべんとうに、ほうれん草のごまあえをいれてくれます。ほうれん草のはっぱにあながあいていたときはかわいそうに思いました。でも虫さんがたべられるぐらい安全でおいしいほうれん草だとお父さんがおしえてくれました。